

Sun Java™ System Connector for Microsoft Outlook リリースノート

バージョン 6 2004Q2

Part No. 817-7107

最終更新日 : 2004 年 6 月 18 日

このリリースノートには、Sun Java™ System Connector for Microsoft Outlook のバージョン 6 2004Q2 (Connector for Microsoft Outlook) のリリース時点での重要な情報が含まれています。ここでは、新機能や拡張機能、既知の制限事項や問題点、技術的な注意事項、およびその他の情報を説明します。このマニュアルは、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 6 2004Q2 を使用する前にお読みください。

最新版のリリースノートは、<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja> から入手できます。ソフトウェアをインストールし、設定する前にこの Web サイトを確認し、その後は定期的にアクセスして最新のリリースノートやマニュアルを参照してください。

このリリースでの新機能については、「このリリースでの新機能」を参照してください。

このリリースノートには、以下の節があります。

- [リリースノートの変更履歴](#)
- [Sun Java System Connector for Microsoft Outlook バージョン 6 2004Q2 について](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [インストールおよび設定に関する注意事項](#)
- [Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 に関する注意事項](#)
- [制限事項と問題](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [Sun が提供しているその他のリソース](#)

このマニュアルには、その他の関連情報の参照先としてサードパーティの URL が記載されています。

注 Sun は、このリリースノートに記載されたサードパーティの Web サイトの有効性および有用性に関して責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料についてサンは推奨しているわけではなく、サンはいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、サンは直接的にも間接的にも、一切の責任を負いません。

リリースノートの変更履歴

表 1 変更履歴

日付	変更内容の説明
2004 年 4 月	本リリースノートの最初のリリース
2004 年 6 月	「このリリースでの新機能」、「このリリースで修正されたバグ」、「ローカライズに関する問題点」の各節を追加

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook バージョン 6 2004Q2 について

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook を利用すると、Outlook を Sun Java Enterprise System のデスクトップクライアントとして使用できるようになります。

Connector for Microsoft Outlook は、エンドユーザーのデスクトップにインストールする必要がある Outlook 用プラグインです。Connector for Microsoft Outlook は、Sun Java System Messaging Server のフォルダ階層および電子メールメッセージを照会し、その情報を、Outlook で表示できる Messaging API (MAPI) プロパティに変換します。同様に、WCAP を使用して Sun Java System Calendar Server の予定および作業を検索し、それらを MAPI プロパティに変換します。このモデルでは、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook は Messaging Server のメールと Calendar Server のカレンダー情報という別の 2 つの情報源からエンドユーザーの Outlook ビューを構築します。

注 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のパッケージには、移行ツールは含まれていないことに注意してください。現在 Microsoft Exchange を使用していて、これから Sun Java Enterprise System で Outlook を使用するユーザーには、移行ツールが必要です。Sun は、既存の配備されている Exchange から Sun Java Enterprise System へのデータおよびユーザーの移行を支援する移行サービスを提供します。

この節では以下の内容を説明します。

- [このリリースでの新機能](#)
- [Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の主な機能](#)
- [システム要件](#)

このリリースでの新機能

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 6 2004Q2 の新機能には、以下の機能があります。

- ターミナルサーバー環境での Connector for Microsoft Outlook のインストールと使用
- パフォーマンスおよび安定性の向上。特に、メールボックスが大きい場合や、フォルダの切り替え処理中
- Connector for Microsoft Outlook のインストールおよび使用における、制限の少ない権限のサポート

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の主な機能

このリリースで利用できる主な機能は、次のとおりです。

- Sun Java System Messaging Server および Sun Java System Calendar Server へのアクセス
- IMAP4 による Messaging Server 上の電子メールフォルダへのアクセス
- WCAP による Calendar Server に保存されているカレンダーデータ (予定、約束) および仕事へのアクセス
- LDAP による企業ディレクトリへのアクセス
- ローカル連絡先フォルダに保存されている連絡先へのアクセス
- Outlook の一般的なメール機能：
 - メッセージの作成、返信、および転送

- Microsoft Word を使用したメッセージの作成と編集
- メッセージ本文へのスペルチェックおよび暗号化の適用
- メッセージヘッダーへのアドレスの補完の適用
- メッセージへの署名の追加
- 他のユーザーとのメールフォルダの共有
- 他のユーザーのメールフォルダの購読
- 一般的なカレンダー機能：
 - 新しい約束と予定 (終日、定期的、公開、非公開) の作成
 - 予定の変更
 - 空き時間の確認
 - 予定の代替時間の表示
 - 予定の出席依頼に対する返信の追跡
- 電子メールベースのグループスケジュール
- 他のユーザーとのカレンダーの共有および共有カレンダーに対する特定のアクセス権の設定
- 他のユーザーのカレンダーの登録
- 他のユーザーへのカレンダーアクセスの委任
- 一般的な仕事関連機能 (作成、変更)
- フォルダとデータタイプに連結するクライアント側のルール
- メモと履歴へのデスクトップ専用アクセス
- メールとカレンダーへの読み込み専用オフラインアクセス
- Web クライアントとの相互運用性 (Communications Express)

システム要件

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のシステム要件と推奨事項を次に示します。

- オペレーティングシステム :
 - Microsoft Windows 2000 (Service Pack 3 以上)
 - Microsoft Windows XP (Service Pack 2 以上)
- Microsoft Outlook のバージョン :
 - Outlook 2000 SP3 (ワークグループモード)
 - Outlook 2002 SP2
- Sun Java System Calendar Server 6 2003Q4 (旧称 Sun ONE Calendar Server 6.0) 以降

注 Sun Java System Calendar Server より前のバージョンを配備している場合、Sun のプロフェッショナルサービスを契約して、データを新しい形式へ変換し、移行できるようにする必要があります。そのような Sun のプロフェッショナルサービスのサポートを利用できません。予定の繰り返しの保存と管理が根本的に変更されたため、Outlook を使用している場合は、この移行が必要です。Calendar Server 6.0 を新たに購入された場合、移行サービスは必要ありません。

- Sun Java System Messaging Server 6 2003Q4 (旧称 Sun ONE Messaging Server 6.0) 以降

注 Calendar Server と Messaging Server は、Sun Java Enterprise System からインストールします。Sun Java Enterprise System は、http://www.sun.com/software/download/java_system.html からダウンロードできます。

- Web 発行ウィザード (Outlook 2000 の場合のみ必要)

Windows 2000 を使用している場合は、Wp wiz.exe プログラムファイルを調べて、Web 発行ウィザードがコンピュータにインストールされていることを確認します。例えば、プログラムが C ドライブにインストールされている場合は、次の場所を確認します。

C:\Program Files\Web Publish\Wp wiz.exe

または、「スタート」ボタンから「検索」を使用して、Wp wiz.exe ファイルを検索します。

Windows 2000 コンピュータに Web 発行ウィザードがインストールされていない場合は、次の URL からダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/release.asp?ReleaseID=22658&area=search&ordinal=2>

注 この Web サイトでは、ここでダウンロードする Web 発行ウィザードは Windows 95 および Windows NT 4.0 用となっていますが、Windows 2000 用として適切なバージョンです。

- Microsoft Outlook LDAP サービス (Outlook 2000 の場合のみ必要)

インストールする場合、管理者は Microsoft Office または Outlook CD 全体をコピーし、ネットワークドライブに置きます。デスクトップ配備プログラムでこのインストール場所を入力します。エンドユーザーのインストールでは、指定された場所から LDAP サービスが選択され、インストールされます。詳細については、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の『デスクトップ配備管理者ガイド』の「Deployment Toolkit のコンポーネント」を参照してください。

このリリースで修正されたバグ

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 6 で修正されたバグについて、以下の表で説明します。

表 2 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 6 2004Q2 で修正されたバグ

バグ番号	説明
5007229	自動アーカイブ処理で、画面のちらつきが頻繁に発生する
5007236	send または received がトリガされるたびに CPU 使用率が 100% になる
5009342	Power User ではパッケージをインストールできない
5012162	Exchange カレンダー移行ツールで、Connector for Microsoft Outlook からのダイアログボックスが表示される
5016367	送信者の電子メールが正しく設定されていないと、SMTP がメッセージの配信に失敗する
5028465	「Offline Task」ラベルが完全に表示されない (韓国語版)
5031317	削除したフォルダが、フォルダリストに表示され続ける
5031873	電子メールの未配信通知が英文で表示される (中国語版)
5033620	ユーザー ID がカレンダーのアクセス権の「ユーザーの追加」ダイアログで認識できない状態になる (日本語版)
5033627	配備設定プログラムで、「LDAP」タブの下の「ユーザーの DN パターン」ラベルが切り詰められる (日本語版)

表 2 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 6 2004Q2 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
5033662	ユーザー ID が共有カレンダーフォルダで認識できない状態になる (日本語版)
5033748	日本語版のオンラインヘルプの本文に文字化けが存在する 「About Sun Java System Connector for Microsoft Outlook」 ダイアログの著作権情報に識別できない文字が表示される (日本語版)
5033763	「デバッグログ」 ダイアログで、「電子メールのログレベル」 ラベルが完全に表示されない (日本語版)
5034894	オフラインモードで、「Offline/cached Mailbox」 ダイアログで、「Deselect all」 のボタンのラベルテキストが完全に表示されない (韓国語版)
5034904	韓国語版で、件名なしで送信されたメッセージが英語で表示される (「<No Subject>」)
5040590	配備設定プログラムで、IMAPSP への参照が「IMAP」タブ内に存在する
5042029	変更された「reply-to」フィールドが Outlook でのみ有効
5042526	インストールには管理者ログインまたはアクセスが必要

インストールおよび設定に関する注意事項

Connector for Microsoft Outlook は、エンドユーザーのデスクトップにインストールする必要がある Outlook 用プラグインです。組織での Connector for Microsoft Outlook の配備を支援するための配備設定プログラムが用意されています。

注 Sun Java System Connector for Microsoft Outlook をインストールする前に、必要なパッチについての最新情報を <http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=patchpage> で確認してください。

インストールと配備には、次の 3 段階のプロセスがあります。

1. 管理者パッケージのインストール
2. エンドユーザー用のインストールパッケージの作成
3. インストールパッケージの配備

Connector for Microsoft Outlook パッケージには、管理者パッケージのインストーラが付属しています。システム管理者は、エンドユーザー用にセットアップウィザードと呼ばれる専用のインストールパッケージを作成する必要があります。このセットアップウィザードで、デスクトップに Connector for Microsoft Outlook ソフトウェアをインストールして設定します。このインストールパッケージは、インストール処理を簡単にし、自動化するよう設計されています。

インストール、設定、および配備の手順については、次の各マニュアルを参照してください。

- 『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook デスクトップインストールガイド』- 管理者パッケージのインストール方法を説明しています。
- 『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook デスクトップ配備管理者ガイド』- エンドユーザー用のインストールパッケージの作成方法を説明しています。
- 『Sun Java System Connector for Microsoft Outlook デスクトップ配備設定プログラムリファレンス』- デスクトップ配備設定プログラムについて説明しています。

データの変換

Connector for Microsoft Outlook の設定および構成時に実行できるオプションの手順に、デスクトップ上のデータの変換があります。この変換処理は、エンドユーザーのインストールパッケージの作成時に管理者が「既存のユーザープロファイルを変換する」オプションにチェックマークを付けた場合にのみ起動されます。この変換処理は、サーバーベースの移行の代わりになるものではありません。Sun は、既存の配備されている Exchange から Sun Java Enterprise System へのデータおよびユーザーの移行を支援する移行サービスを提供します。

また、この変換処理は、ユーザーの Exchange 以外のその他のプロファイルを移行するものではありません。

LDAP 属性

Connector for Microsoft Outlook を正しく機能させるには、Sun Java System Directory Server の次の LDAP 属性の少なくとも実在インデックスと等価インデックスを作成して、全体的なパフォーマンスを向上させる必要があります。

- icsCalendar
- mail
- mailalternateaddress

これらの属性の詳細は、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』および『Sun Java System Messaging Server 管理ガイド』を参照してください。

Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 に関する注意事項

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook 6 2004Q2 リリースの Sun Java System Calendar Server 6 2004Q2 に関する注意事項を以下に示します。

- [Calendar Server のインストール](#)
- [必須 LDAP mail 属性](#)
 - [例: リソースカレンダーへの LDAP email 属性の追加](#)
 - [例: リソースメール用 bitbucket チャンネルの設定](#)
- [電子メールエイリアス \(mailalternateaddress 属性\)](#)
- [共有カレンダー LDAP 検索の設定](#)
- [Outlook の空き時間検索と SSL](#)
- [Calendar Server Delete Log データベース](#)

Calendar Server のインストール

Calendar Server の最新バージョンは、

http://www.sun.com/software/product_categories/email_calendar_collaboratoin.html からダウンロードできます。

また最新のパッチをインストールすることをお勧めします。Sun Solve (<http://sunsolve.sun.com>) からダウンロードできます。

インストール手順の詳細については、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。設定の手順については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』を参照してください。

必須 LDAP mail 属性

Calendar Server 6 2004Q2 以降では、ユーザーカレンダーとリソースカレンダーに LDAP mail 属性が必要です。

クライアントが Microsoft Outlook を使って、リソースカレンダー (会議室またはノートブックコンピュータやオーバヘッドプロジェクトなどの備品) をスケジュールする場合は、リソースそれぞれに (実際に必要がない場合でも) 電子メールアドレスを割り当てる必要があります。LDAP mail 属性は、この電子メールアドレスを指定します。

具体的には、次のように LDAP mail 属性を追加する必要があります。

既存の 5.x インストール: cs5migrate 移行ユーティリティを実行する前に、ユーザーカレンダーとリソースカレンダーの mail 属性をユーザーに追加します。mail 属性を追加するには、Calendar Server の csattribute ユーティリティまたは Directory Server の ldapmodify ユーティリティを使用します。

新しい 6.0 インストール: Calendar Server の csattribute ユーティリティまたは Directory Server の ldapmodify ユーティリティなどのユーティリティを使用して、ユーザーカレンダーとリソースカレンダーの既存のユーザーに LDAP 属性 mail を提供します。

インストール後に新しいカレンダーやユーザーを作成する場合は、必須 `-m email` オプションを使用して、次の Calendar Server ユーティリティを実行する時に電子メールアドレスを指定します。

- csresource ユーティリティ (新しいリソースカレンダー用)
- csuser ユーティリティ (新しいユーザー用)

csattribute、csresource、および csuser の関連情報については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』を参照してください。ldapmodify ユーティリティの関連情報については、『Sun Java System Directory Server Resource Kit Tools Reference』を参照してください。

例: リソースカレンダーへの LDAP email 属性の追加

次の例では、sesta.com サーバー上の「Room100」という会議室に LDAP mail 属性を追加します。この例では、Messaging Server を設定します。別の電子メールサーバーを使用している場合は、その製品マニュアルで対応するプロセスを参照してください。

1. csattribute ユーティリティを使用して、LDAP サーバーに mail 属性を追加します。

```
# ./csattribute -a mail=Room100@sesta.com add Room100
```

2. この属性が設定されていることを確認するには、csattribute list コマンドで `-v (verbose)` オプションを指定します。

```
# ./csattribute -v list Room100
...
cn=Room 100,ou=conferenceRooms,dc=sesta,dc=com has
mail:Room100@sesta.com
```

例：リソースメール用 bitbucket チャンネルの設定

次の例では、Messaging Server の bitbucket チャンネル、またはリソースカレンダー用に生成される電子メールの Sendmail に対応するチャンネルを設定します。この例では、sesta.com サーバーの「Room100」というリソースを使用します。bitbucket チャンネル（またはこれと同等のチャンネル）を設定しない場合、リソースカレンダーに送信された電子メールメッセージを定期的に削除する必要があります。

Messaging Server の場合：

1. bitbucket チャンネルが、imta.cnf ファイルに定義されていることを確認します。
2. メッセージを bitbucket チャンネルに送るには、csresource ユーティリティを使用して、リソース用の電子メールアドレスを作成します。

```
# ./csattribute -a mail=Room100@bitbucket.sesta.com add Room100
```

Sendmail の場合：

1. 該当するホスト上の /etc/aliases ファイルに、次のようにエントリを追加します。

```
# Resource/Conference room aliases
Room100:/dev/null
```

2. csresource ユーティリティを使用して、リソース用の電子メールアドレスを LDAP ディレクトリに追加します。

```
# ./csattribute -a mail=Room100@sesta.com add Room100
```

注 これらの変更を有効にするには、エイリアステーブルまたはエイリアス設定を再構築しなければならない場合があります。詳細については、**Messaging Server** または使用しているメール製品のマニュアルを参照してください。また、自分のサイトでメールサービスの変更に関するマニュアルや手順を参照してください。

電子メールエイリアス (mailalternateaddress 属性)

カレンダーユーザーのメールエイリアスを設定する必要がある場合、LDAP mailalternateaddress 属性を使用します。LDAP mail 属性は、プライマリメールアドレスを指定します。LDAP mailalternateaddress 属性はメールエイリアスに使用します。両方の属性により、メールアドレスがユーザーのカレンダー ID (calid) にマップされます。

たとえば、次の値を持つ John Smith というユーザーの mailalternateaddress 属性を追加します。

- ユーザー ID (uid) と calid: johnsmith
- メールアドレス: john.smith@sesta.com
- メールエイリアス: johns@sesta.com と jsmith@sesta.com

次の Calendar Server ユーティリティコマンドを使用します。

```
# ./csuser -g John -s Smith -y password -l en -m john.smith@sesta.com -c johnsmith create johnsmith
# ./csattribute -a mailalternateaddress=johns@sesta.com add johnsmith
# ./csattribute -a mailalternateaddress=jsmith@sesta.com add johnsmith
```

共有カレンダー LDAP 検索の設定

Directory Server で、共有カレンダー LDAP 検索に対して認証が必要な場合、次のように、service.wcap.userprefs.ldaproxyauth パラメータを ics.conf ファイルに設定する必要があります。

- 匿名バインド: service.wcap.userprefs.ldaproxyauth = "no"
- 認証プロキシバインド: service.wcap.userprefs.ldaproxyauth = "yes"

service.wcap.userprefs.ldaproxyauth パラメータが「yes」の場合、calmaster エントリに適切な LDAP ACI も設定する必要があります。たとえば、calmaster ACI を sesta.com ドメインのプロキシ認証用に設定するには、次のように ldapmodify ツールを使用します。

```
dn:o=sesta.com
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///uid=*,o=sesta.com")(targetattr=*(version3.0;acl"allowAll-calmaster";allow
(all)(userdn="ldap:///uid=calmaster,o=sesta.com");)
aci:(target="ldap:///uid=*,o=siroe.com")(targetattr="*")(version3.0;acl"allowproxy-calmaster";allow
(proxy)(userdn="ldap:///uid=*,o=sesta.com");)
```

Outlook の空き時間検索と SSL

Microsoft Outlook の空き時間検索オプションは、Calendar Server に SSL モードでアクセスするユーザーにはサポートされません。SSL と非 SSL モードの両方を同じ Calendar Server インスタンスに使用するには、次のように別のポート番号を指定する必要があります。

- **SSL モード** - SSL を使用して Calendar Server にアクセスするには、SSL ポートを使用します。デフォルトのポート番号は、「443」で、ics.conf ファイルにこのパラメータを設定します。
- **非 SSL モード** - Outlook の空き時間検索オプションを使用するには、通常の HTTP ポートを使用して Calendar Server にアクセスします。デフォルトのポート番号は、「80」で、ics.conf ファイルにこのパラメータを設定します。

```
service.http.ssl.port = "443"
```

```
service.http.port = "80"
```

SSL については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』の第 9 章、「Calendar Server での SSL の使用」を参照してください。

Calendar Server Delete Log データベース

Calendar Server 6.0 には、削除されたイベントや仕事を保存する Delete Log データベース (ics50deletelog.db) が組み込まれています。詳細については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』の第 7 章、「削除ログデータベースの管理」を参照してください。

制限事項と問題

この節では、このリリースの Sun Java System Connector for Microsoft Outlook の制限事項と既知問題について説明します。

制限事項

このリリースの Sun Java System Connector for Microsoft Outlook にはいくつかの制限事項があります。主な制限事項は、次のとおりです。

- Directory Server のユーザー、リソース、会議室などの個別の識別情報には、電子メールアドレスが必要です。詳細は、「[必須 LDAP mail 属性](#)」を参照してください。
- カレンダーイベント中の任意の添付ファイルは、サーバーに保存されません。
- 予定や会議の説明フィールドに含まれるリッチテキストは、同じカレンダーの予定が Communications Express クライアントで変更されると、失われます。
- 作業 / 仕事の割り当て機能は利用できません。
- メッセージの取り消し機能は利用できません。
- 空き時間の確認中には、イベントの説明を参照できません。
- 一次カレンダーフォルダだけがサーバーへマップされます。別のカレンダーフォルダはローカルに保存されます。
- 「履歴」 エントリと 「メモ」 はデスクトップにローカルに保存されます。
- 「連絡先」 はローカルに保存されます。
- 空き時間検索では、「仮の予定」 または 「外出中」 のカラーコーディングが表示されません。
- Outlook メニューから 「ツール」 -> 「サービス」 オプションを使って Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のプロパティを変更することはできません。プロパティを変更するには次の手順に従います。
 - a. Outlook を終了します。
 - b. 「Outlook」 アイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
「プロパティ」ダイアログが表示されます。
 - c. サービスのリストから、フォルダ -< 使用しているユーザー名 > を選択します。
 - d. 「プロパティ」 をクリックします。
- SSL を使った空き時間検索はサポートされていません。詳細は、「[Outlook の空き時間検索と SSL](#)」を参照してください。

- Outlook で Sun Java System プロファイルを使う場合、デフォルトの配信先を個人用フォルダに設定しても、受信メールを個人用フォルダに受信できません。Connector for Microsoft OutlookIMAP ストアは受信メールをメール配信場所で設定されたデフォルトの受信トレイに再送しません。
- Exchange サーバー上での Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のインストールはサポートされていません。

既知の問題

この節では、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のリリース時点での既知の問題を説明します。既知の場合、バグ ID を括弧で囲んで示してあります。

一般的な問題

- サイレントインストールモードでユーザープロファイルを変換または作成する場合、デフォルトプロファイルが必要です。(4938665)
- オフラインサポートの制限。メッセージやカレンダーの約束の読み取りは可能ですが、返信、転送はできません。オフラインで作成されたメッセージは、ユーザーがオンラインモードに切り換えたときに送信されます。
- 定期的な仕事は、サポートされません。
- Outlook の仕事の依頼は機能しません。代理人が、受信トレイ内の依頼した仕事を開くことができません。これを回避するには、代理人が、依頼した仕事を「メールフォルダ」の「INBOX」から「フォルダ」の「受信トレイ」へ移動します。そこで開くことができます。

カレンダー

次は、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のカレンダーのみに関する問題です。

- 開催者の「共有 INBOX」からの出席依頼を代理人が受諾または辞退する場合、代理人のカレンダーにはカレンダーイベントが追加されますが、開催者のカレンダーには追加されません。
- カレンダーの添付ファイルを送信すると、Microsoft TNEF メッセージが送られます。iTIP と iMIP カレンダー添付ファイルはサポートされません。
- デスクトップのタイムゾーンが Calendar Server のカレンダーのタイムゾーンと異なる場合、終日に設定された予定は、終日ではない予定 (午前 12:00 から午後 12:00 までにスケジュールされている予定) になる可能性があります。
- Outlook で出席依頼を作成するときに、Calendar Server への保存時にエラーが発生しても、その出席依頼は Outlook から送信されます。

- Outlook で作成した定期的なイベントに終了日が指定されていない場合、繰り返しは Calendar Server に有限の回数で内部的に保存されます。また、空き時間情報は、Calendar Server に保存されている回数までしか保存されません。たとえば、Outlook で午前 10 時の毎日、定期的なイベントを作成した場合、Calendar Server では 60 回までの繰り返し予定としてしか保存されません。Outlook では 61 日目のイベントはまだ表示されますが、空き時間を計算するとき、午前 10 時は「空き時間」と表示されます。
- カレンダーのアクセス権を変更するには、Outlook を再起動して、共有カレンダーの「カレンダー」フォルダの新しいアクセス権設定を有効にする必要があります。
- 共有カレンダーに表示される仕事は、ログインユーザーの仕事であり、購読しているユーザーの仕事ではありません。このカレンダーには、ログインユーザーの仕事が常に表示されます。
- Outlook で定期的な予定の出席依頼を作成し、その予定の 1 つのインスタンスを削除すると、削除前に Calendar Server が最初の繰り返し出席依頼を処理していなかった場合は、削除された出席依頼が受信者 (出席者) に表示されません。
- タイムゾーンを変更してイベントを作成するとエラーが発生します。(4971548)

次は、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook と Sun Java System Communications Express の相互運用性に関する問題です。

- Outlook で作成した複数日にわたるイベントが、Communications Express では正しく表示されません。たとえば、Outlook で、開始時刻が火曜日の午前 8:00、終了時刻が金曜日の午前 8:00 のイベントを作成すると、Outlook では正しく表示されます。しかし、Communications Express の月別ビューでは、期間が 0 時間の火曜日の 1 日予定として表示されます。期間は、すべてのビューで正しく表示されません。Communications Express の日別ビューおよび週別ビューでは、予定が正しく表示されます。(4958773)
- Communications Express を使用して説明テキストを編集する場合、Outlook の RTF 書式は維持されません。
- Outlook と Communications Express ではプライバシークラスが異なります。Outlook では、非公開と公開の 2 つのプライバシークラスがありますが、Communications Express では、非公開、時刻および日付のみ、および公開の 3 つのクラスがあります。Outlook では、非公開の予定は、Communications Express の「日時のみ」の予定として作成されます。Outlook の公開された予定は、Communications Express の公開の予定にマップされます。同様に、Communications Express の「日時のみ」イベントは Outlook の非公開の予定に、公開の予定は Outlook の公開の予定にマップされます。また Communications Express の非公開の予定は、非公開の予定として Outlook にマップされます。Communications Express で非公開イベントとして現れる非公開イベントを Outlook で作成するには、「予定の公開方法」フィールドから「空き時間」を選択します。Communications Express の非公開の予定は、別のユーザーの共有「カレンダー」フォルダに表示されません。
- Outlook と Communications Express では、空き時間の実装方法が異なります。Communications Express では、デフォルトの非公開の予定は、「空き時間」です。予定を空き時間検索の対象にするには、手動で「予定あり」にセットしなければなりません。Outlook では、デフォルトの予定は、非公開、公開ともに「予定あり」です。

- **Communications Express** から予定を **Outlook** 形式のファイルにエクスポートしても、同じファイルからその予定を **Outlook** にインポートできません。
- **Outlook** と **Communications Express** の定期的な作業 / 仕事の実装方法に互換性がありません。**Outlook** では、定期的な仕事は、RFC 2445 に従っていませんが、**Communications Express** では、RFC 2445 に準拠した情報で動作するように特に設計されています。このため、**Outlook** と **Calendar Server** 間で定期的な作業 / 仕事をやりとりするときに問題が発生します。

Outlook でローカルで保存された情報は、**Calendar Server** に保存された情報と必ずしも一致しません。**Sun Java System Connector for Microsoft Outlook** では、たとえば、定期的な仕事に関する情報を **Calendar Server** に転送しません。**Outlook** で作成された仕事は定期的かどうかにかかわらず、**Communications Express** では 1 つの作業として表示されます。**Communications Express** で作成された作業が、**Calendar Server** から定期的であるかの情報を使用するのは、**Outlook** で既存の仕事を変更したときではなく、その仕事が **Outlook** クライアントで初めて書き込まれたときです。

このため、多くの場合、**Outlook** と **Communications Express** で定期的な作業 / 仕事の表示が異なります。仕事の繰り返しを使用するユーザーは、**Outlook** と **Communications Express** の両方のクライアントを交互に使用するのではなく、どちらか一方を使用することをお勧めします。

- **Outlook** と **Communications Express** では、次のように終日の予定 / イベントを作成する方法および処理方法が異なります。
 - **Outlook** で作成した終日のイベントは、**Communications Express** で適切に同期をとることができない (5021228 および 4984895)
 - **Communications Express** で作成した終日の予定は、**Outlook** では時間を指定したイベントとして同期がとられる (4995529)
- カレンダの登録を解約しても、カレンダはフォルダのリストから削除されません。 (5032872)

Communications Express でカレンダを登録するか、または登録を解約する場合、**Outlook** ではその情報は **Outlook** を再起動するまで更新されません。また、検索のために設定された LDAP が複製である場合は、登録のリストは、複製が更新されるまで更新されません。

メール

次は、**Sun Java System Connector for Microsoft Outlook** のメールのみに関する問題です。

- 転送メッセージ内の添付ファイルの保存 (4946488)

転送メッセージの一部として受信した添付ファイルは、添付ファイルをダブルクリックしても保存できません。添付ファイルを保存するには、右クリックして、「別名で保存」を選択します。
- 「送信済みアイテム」フォルダにカラムフィールドが正しく表示されません。 (4972488)

「送信済みアイテム」フォルダのカラムヘッダーには、誤って「宛先」と「送信日時」と表示されますが、正しいカラムヘッダーは「差出人」と「受信日時」です。
- **Outlook 2000** および **Outlook 2002** の「高度な検索」ダイアログボックスでは、検索対象として 1 つのフォルダしか指定できません。

次は、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook と Sun Java System Communications Express などの他のメールクライアント間の相互運用性に関する問題です。

- Outlook からリッチテキスト形式でメッセージを送信すると、メッセージには、書式のないプレーンテキストの本文と WINMAIL.DAT 添付ファイルが含まれます。WINMAIL.DAT 添付ファイルには、追加された可能性のある他の添付ファイルと一緒に、リッチテキストメッセージが含まれます。この形式は、Microsoft 独自のものであるため、WINMAIL.DAT 添付ファイルは Outlook でしか読めません。Communications Express (および他のクライアント) では、書式設定のないテキストメッセージと WINMAIL.DAT 添付ファイルだけが表示されます。リッチテキスト形式ではなく HTML 形式で送信メッセージを作成することをお勧めします。
- 「差出人」ヘッダーのアドレスの変更 (4949659)
出席者がイベントの出席依頼に返信し、winmail.dat カレンダー出席依頼ファイルを添付すると、「差出人」ヘッダーの名前が変更されます。たとえば、Joe が Outlook から Bob へイベントの出席依頼を送信し、Bob は、元の winmail.dat カレンダー添付ファイルが Joe に自動的に返信されるメールクライアントを使用して、Joe に返信します。Joe が返信を開いたとき、「差出人」ヘッダーは Joe に変更されています。
- 電子メール ID は、Outlook では必須 (4969029)
カレンダー ID はあるが、電子メール ID のないユーザーが Communications Express でイベントに出席を依頼された場合、このユーザーは Outlook では出席者として表示されません。電子メール ID は、Outlook では必須になります。

ローカライズに関する問題点

次の問題は、Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のローカライズしたバージョンに影響します。

- 配備設定プログラムのオンラインヘルプに識別できない文字が存在する (5033752)
- 配備設定プログラムのオンラインヘルプのトピックリストに星 (★) のグラフィックが表示される (5056940)
- Windows マシンのローカライズしたオンラインヘルプには、次の領域の問題が 1 つ以上含まれていることがある (5035363, 5031913, 5028387, 5028413, 5034886, 5028420, 5033752, 5056940)
 - オンラインヘルプの索引と本体、またはそのどちらかに英語が含まれているか文字化けが存在する
 - 索引リストがローカライズされた言語の順になっていない
 - オンラインヘルプで英語以外の語で検索するのは難しい
 - テキストまたはトピックリストに、識別できない文字またはグラフィックがある
- 配備設定プログラムのインストーラがローカライズされていない。Connector for Microsoft Outlook のインストールパネルの一部も英語である (5028359)

- 韓国語の Connector for Microsoft Outlook のインストールパネルに韓国語で氏名を入力すると、認識できない文字が表示される (5028453)
- ログファイルに識別できない文字が含まれることがある (5033783)

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Connector for Microsoft Outlook で問題が発生した場合は、次のどちらかの方法で Sun のカスタマサポートに連絡してください。

- Sun Software Support サービスオンライン
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
このサイトには、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、および ProductTracker へのリンクと、保守プログラムおよびサポート連絡先電話番号へのリンクが掲載されています。
- 保守契約に関連する受付電話番号

できるだけ確実に問題に対応できるようにするため、サポートにお問い合わせの際は次の情報を用意してください。

- 問題の詳細 (問題が発生したときの状況や業務への影響度など)
- マシンのタイプ、OS のバージョン、および製品のバージョン (問題に関係している可能性があるパッチやその他のソフトウェアなど)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの改善のために、皆様からのコメントおよび提案をお待ちしております。フィードバックには、次の Web ページのフォームをご使用ください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

該当の欄にマニュアルの正式タイトルと Part No. をご記入ください。Part No. は、マニュアルのタイトルページか先頭に記述されている 7 桁または 9 桁の番号です。たとえば、このリリースノート の Part No. は 817-7107 です。

Sun が提供しているその他のリソース

次のインターネットサイトには、Sun Java System に関する役立つ情報があります。

- Sun Java System Connector for Microsoft Outlook のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun Java System のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun Java System のプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System のソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System のソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System のサポートおよびナレッジベース
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun のサポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java System のコンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun の開発者向けサポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System のソフトウェアトレーニング
<http://www.sun.com/software/training>
- Sun のソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。

Sun が提供しているその他のリソース